



TECHNICAL REPORT Vol.4

RUTILIGHT® を用いた乳癌切除後
一次的組織拡張器 (TE) 挿入術での臨床経験



株式会社トライテック

〒140-0013 東京都品川区南大井 1-20-17

TEL:03-5767-9831 FAX:03-5767-9839

【関西支店】TEL:075-275-2787 FAX:075-277-4912

<https://www.trytech.co.jp/>



㈱トライテックは ISO13485
の認証を取得しこのシステム
に基づき製品管理への取り組
みを着実に進めております。

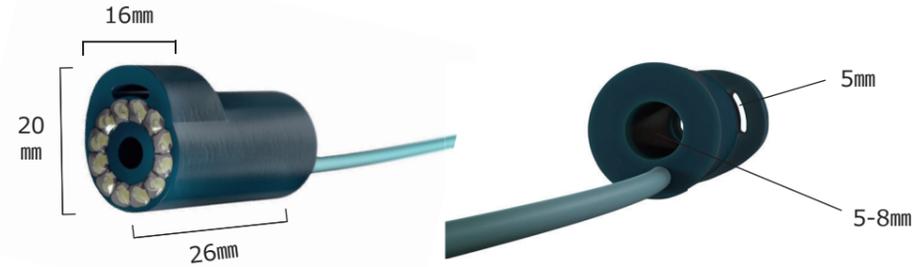
RUTILIGHT® を用いた乳癌切除術後 一次的組織拡張器（TE）挿入術での臨床経験

市立池田病院 形成外科部長 藤田 和敏 先生



はじめに

ルチライトはディスポーザブル型の術野用 LED ライトであり、電気メス、吸引、鑷子等の医療器具に装着可能である。無影灯やライト付き筋鉤では照らしきれない「深く」「狭く」「暗い」術野を手元からピンポイントに照らすことが可能である。



症例

乳癌切除術後、一次的組織拡張器（TE）挿入術
乳腺外科による乳癌切除術後、大胸筋を剥離し一次的 TE 拡張術を施行した。

考察

左乳癌切除術後の一次的 TE 挿入術では、大胸筋下の剥離時において深部の操作になるため、ライティングに苦慮することが多い。ルチライトを使用すると、常に電気メスの先端にライトの光が収束するので、内胸動脈や肋間からの穿通枝がより認識可能となり、剥離時の血管焼灼が確実なものとなった。

利点

▶ 電気メスの先端が常に照射されている

無影灯やライト付き筋鉤使用時は、電気メスの先端とライトの先端の位置に多少のギャップが生じることがしばしばある。ルチライトを電気メスの先に装着した場合、照射野が常にメスの先端に集まっているので、より明瞭な術野を確保することができ、微細な血管の確認が可能となり、さらには手術操作に伴う出血の減少につながると考えられる (Fig.1,2)。

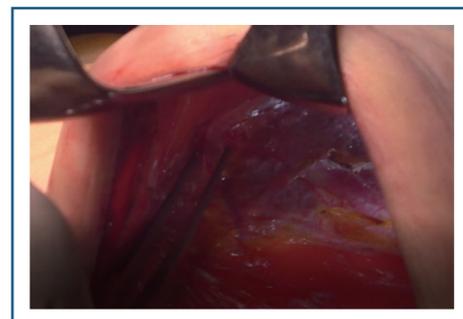


Fig.1 無影灯のみの術野



Fig.2 ルチライトを装着することで術野が明瞭となる

▶ 様々な手術器具に装着可能

ルチライトには大・小 2 カ所の穴が開いており、電気メス、鑷子、吸引チューブの先端に装着することができる。そのため、術野に応じてライト付きの手術器具を作成することが可能である (Fig.3)。

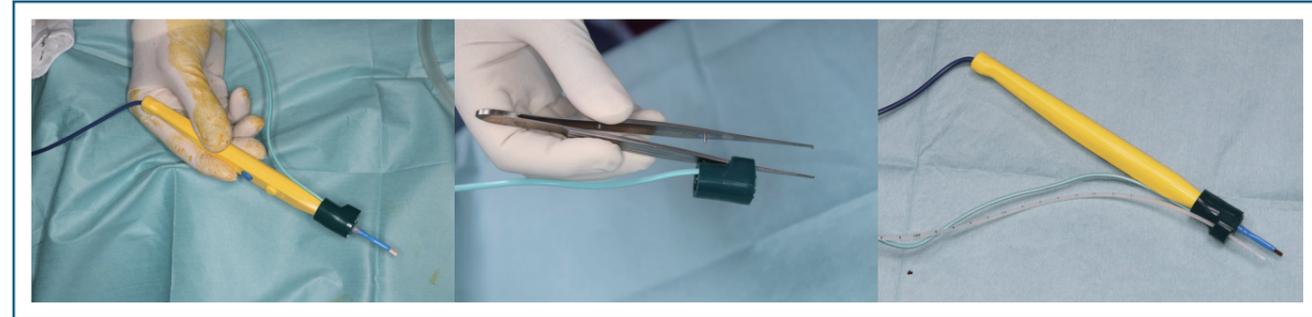


Fig.3 ルチライトは様々な治療器具に取り付けることが可能である (左から電気メス、鑷子、電気メス+吸引チューブに装着)

▶ 電気メスとサクシオンチューブを組み合わせることで Surgical smoke 対策も可能

電気メスなどで生体組織を焼灼または切開した際に発生する煙 (Surgical smoke) が術野の妨げになることがある。ルチライトの外側の穴に細めの径の吸引チューブを取り付けることで、排煙しながら電気メスを使うことが可能となり、視認性の向上が期待される (Fig.4)。

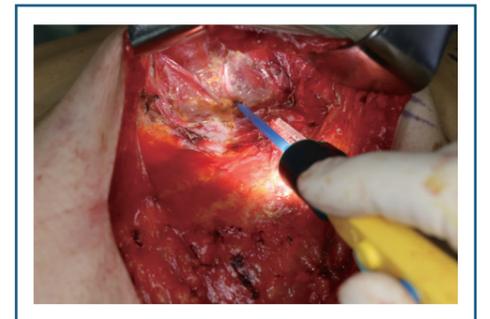


Fig.4 吸引チューブで排煙しながら電気メスで切開することも可能

使用するポイント

▶ コードを一体化させることでストレスを軽減

電気メスに装着する際には、電気メスのコードに沿うように、覆布テープやサージカルテープなどで一体化させることでコードの煩雑さは解消できると思われる (Fig.5)。

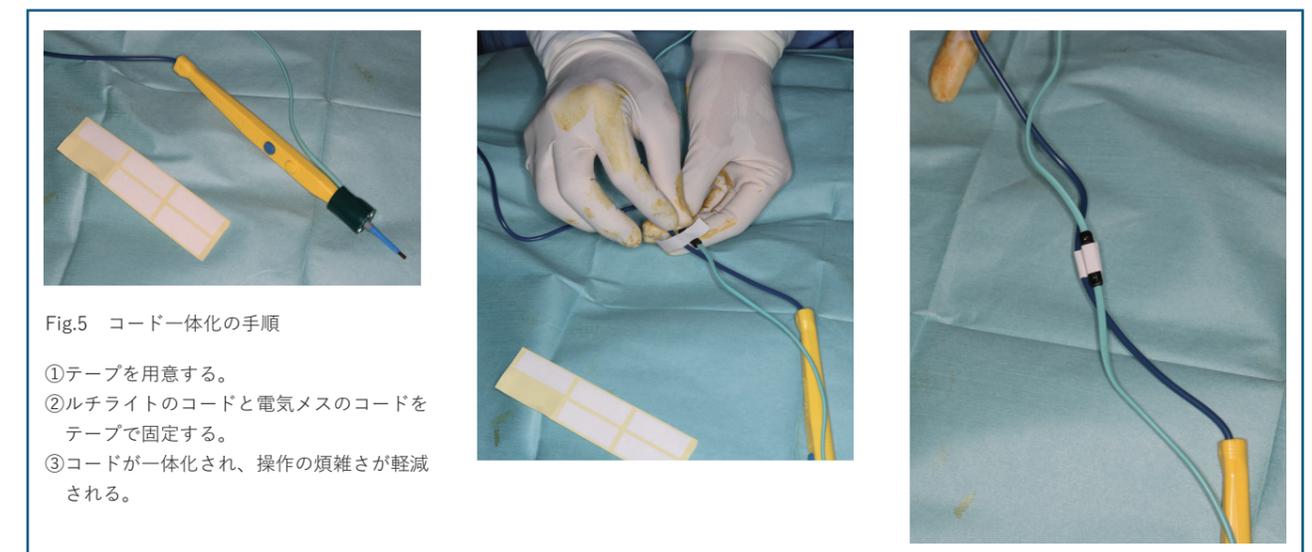


Fig.5 コード一体化の手順

- ①テープを用意する。
- ②ルチライトのコードと電気メスのコードをテープで固定する。
- ③コードが一体化され、操作の煩雑さが軽減される。